

グラウンドワークとは・・・

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

～グラウンドワーク三島15周年～ 特別ゲストによる討論会開催



進士五十八教授

平成18年6月4日(日)、平成18年度通常総会(P2参照)が開催されました。今年度は、GW三島の活動が始まってから15周年となる記念すべき節目の年です。

GW三島では、「水の都・三島」の原風景・原体験の再生と復活を願い、市民・NPO・行政・企業との新たな連携と協議の仕組みづくりに奔走してきました。現在、市内各所に30カ所以上の環境改善の実践地があり、観光振興的、まちづくりの視点から、NPO活動の先進事例として、全国各地から高い評価を受けております。

通常総会終了後には、基調講演の後に、討論会(一般公開)などを開催しました。

基調講演

「水の都・三島・次なる発展へのロードマップとは」
講師・進士五十八(しんじいそや)東京農業大学教授。

進士教授は、風景を見ながら心はふるさとを思う - と書いた李白の詩を例に「そぞろ歩きを楽しめる街をどう作っていくかが三島の課題」と語り、治水、緑化などの多くの要素を持つ事業の場合は、「市民の目で全体の景観を考える必要がある。詩人が詩を読み、画家が絵を描きたくするような風景を作っていくべきで、都市の美しさは市民の心の反映である」と話しました。

意見交換

「水の街・三島の環境・観光資源の戦略的活用方法とは」
シニア市場をターゲットにして旅行ツアーを展開する、クラブツーリズム(株)クラブ1000 推進部長霜田正明さんが、「旅づくりのカルスマから見た三島の魅力と影・その演出とは」と題して、事業説明と三島の可能性に言及しました。『三島は目的が明確な私どもの会員が喜びそうなポイントがいくつもあった』と評価。参加者、専門家等との課題解決型のワークショップ形式での討論会を繰り広げました。

～メダカチャリティーコンサート～

7月25日(火)メダカのチャリティーコンサートが開催されました。

貴重な在来のメダカが生息する三島南高等学校のピオトープが、埋め立てられることになったため、メダカの救出作業を行ったことを新聞で知った、室伏勝宏みまプラザホテル社長の賛同・協力により実現したものです。ステラフィオーレアンサンブル11名によるマンドリン演奏で、参加者130名は美しい音色に酔いしれていました。

コンサートで集められたお金はグラウンドワーク三島ピオトープ基金に積み立てられ、今後のピオトープの改修工事など維持管理に生かされます。



～三島で打ち水大作戦～

8月12日(土) 市中心部の大通り商店街で「水の街を冷やそう! 打ち水大作戦」を展開しました。これは箱根西麓の間伐材を有効利用した手おけと竹のひしゃく、湧水をGW三島が用意し、約100人の市民や観光客が歩きながら打ち水を楽しみました。イベントはヒートアイランド現象を緩和するとともに資源リサイクルを体感する目的で、浴衣姿も交じえた参加者は、約200mの区間で「誰でもできる環境活動」という打ち水で街中に涼を呼びました。

～巣鴨・谷中のまちを視察～

8月20日(日)地域の環境・まちづくり活動の先進地である、巣鴨及び谷中界隈のまち視察を実施しました。

巣鴨では、とげぬき地蔵と巣鴨地蔵通り商店街を視察し、高齢者に圧倒的な支持を受けている要因について思いをめぐらしました。

江戸400年来の歴史と伝統のある寺町である谷中は、都心に近いのにもかかわらず、緑の多い静かな町並みが広がっており、震災、戦災で焼けなかった家や町並みが多く見受けられました。特に、路地裏の生活風景や、玄関前の緑の多さなどは、三島のまちづくりにおいて参考となるものが多数あり、帰りのバスでは、参加者35人が様々な意見・提案をしました。



～平成18年度 通常総会 開催～

- 日時 平成18年6月4日(日)
 場所 Via701 1階ホール
 議案 1.平成17年度事業報告及び決算報告承認の件
 2.平成18年度事業計画及び収支予算決定の件
 3.役員選任の件
 4.その他

各議案は賛成多数で全て承認されました。なお、第3号議案で理事の増員が提案され、下記のように理事6名、監事2名が新役員として承認されました。

役員名簿

- | | | |
|----|----------|----------|
| 理事 | 緒明 實(再) | 塚田 冷子(再) |
| | 小松 幸子(再) | 木下 秀彰(新) |
| | 加藤 正之(新) | 渡辺 豊博(新) |
| 監事 | 小浜修一郎(再) | 遠藤 隆(再) |

「バイリンガル環境かるた」

～世相に合わせ改訂版～

GW三島の参加団体グローバル文化交流協会が発行した「バイリンガル環境かるた」の第3版改訂版が10月に完成します。

このかるたは、遊びながら環境問題を考えたり英語を学んだりすることができます。英語と日本語の両方を使ってゲームを進めれば、さまざまな国の人の参加で国際交流にもなります。グローバル文化交流協会である小松幸子GW三島理事は「環境は洋の東西や世代を超えた共通言語。かるたを通じて共感があった思いが、強い絆になる」と語りました。

お問い合わせ先：(電話・FAX 共通)
 055-986-1524・055-988-1633

販売価格1セット1800円(送料別)



改訂版かるたの1枚



アメリカの小学校で

地下水の復活を願いミニダム作りと手桶作り

7月23日(日)「森の木こり講座」が開かれ、参加した親子23人が小雨の中、三島市沢地の山林へ元気に出発した。講師の広川敏雄さんから道具の使い方を習い、間伐材を切り出して斜面に階段状に設置して、ミニダムを2基完成させた。

ダムは、雨水を地下に浸透させ、地下水量の増加が期待される。作業終了後、加茂川町にある悠遊工房ひろかわで、製材済みの間伐材で手桶作りをした。子供たちは夢中になって釘を打ち、側面に名前を彫り、バーナーで焼き付け完成させた。



子供たちの笑顔といっしょ!

にぎやかに腰切不動大祭

5月28日(日)、三島市南本町で今年も腰切不動大祭が行われた。南本町と田町の児童100人が奉納シャガリを披露。子供相撲の参加者も増え、保護者や近所の人たち約200人の応援をうけて盛り上がった。

GW三島の担当団体・日本大学国際関係学部国際協力研究会40名のメンバーは、餅つきや紙芝居、輪投げなどを分担。そこで、焼きそば担当の福地夏美さんは、「ボランティアで、地域の人たちとふれあうことが楽しい」とにっこり笑顔。三島市梅名から訪れたという安部五月さんは「何度か来ていますが、子供たちと学生さんが一緒に仲良くなって、いいお祭りですね」と地域の伝統的なお祭りを楽しんでいた。



自転車きゃらばん

GW三島の活動に参加

京都市で1997年に地球温暖化防止国際会議が開かれたのを機に、環境問題に関心をもつ学生らが始めた。10回目の今年は3ルートに分れ、「水」がテーマの関東ルートはリレー方式で大阪・堺市を目指している。

自転車きゃらばんは8月12日(土)、三島市の中央町・大社前商店街であった「打ち水大作戦」を手伝い、エコライフを訴えた。リーダーで千葉大2年の飯塚瞳さんは、「三島は水の都だけに、市民が積極的に参加していた。GW三島の活動や市民の思いを今後の旅の中で伝えていきたい」と話していた。



そばつくり隊・そば畑の草刈り、種まきを実施

環境コミュニティビジネスの一環で開始した地元農家との協働作業は、3年目を迎える。箱根西麓農地での「三島そば」栽培は、今年、昨年度の2倍の収穫を目指す。

8月19日、繁茂した雑草を刈り、8月26日には種まきを行った。参加者は地元三ツ谷の農家、細井要さんの指導を受け、残った雑草の除去と畑の整地を行った後、昨年収穫したそばの種まき作業を行った。西麓の涼風の吹く曇り空の下、作業は正午にはほぼ終了。

順調に生育すれば、そばの花は10月中に見ることができる。今後も、畑の手入れや収穫作業を行う予定。



雷井戸専用通路完成

水の都三島のシンボリック存在の1つ「雷井戸」(三島市南本町)に通じる路が、このほど完成した。雷井戸は田町水道と呼ばれ、地域住民70世帯に飲み水を供給する簡易水道だったが、市水道に切り替わり使われなくなり、その後、GW三島の関係者3人が、「泉トラスト運動」として約130㎡を私費で購入。GW三島が文化遺産として整備を開始、井戸にたまった泥をかき出し、豊富な湧水を復活させた。

しかし、民地に囲まれていたことから自由な出入りができなかったのを、市がGW三島の協力を得て約50mの進入路を購入整備した。水の苑緑地の東側にあり、竹垣が続く砂利道を進むと、直径3m、深さ約1.5mの井戸からこんこんと水が湧き出し、三島梅花藻が可憐な花をつけている。雷井戸を皆様も訪れては?

富士山湧水インストラクター養成講座 開講

今回の講座は、20数億トンの水を有する「水の山」富士山の湧水池等の実態調査を行い、調査の進行や環境教育の実践者の役割を担う人材育成を目的にしている。期間は9月17日～11月26日、内容は11回の講義と5回の実地研修で構成されている。(実地研修のみ実費)

講師には、富士山の湧水のメカニズムや生態系などに詳しい有識者や実践者を招いている。12回以上講座に出席すると修了証が授与される。応募の登録者は、ほとんどが三島市民であった。1回目の参加者は64名。2回目は70名と(講師も驚くほど)大盛況で、富士山に対する関心の高さをうかがわせた。



山岳トイレの実証機関に 選定される



GW三島は、環境省から平成18年度環境技術実証モデル事業「山岳トイレ技術分野」の実証機関に選ばれた。実証試験の技術を有する公募先を審査し、(株)東陽網業(大阪府吹田市)に決定した。標高530mの富士宮市の白糸の滝で、実証試験を行うことになった。

実証試験によって得られた成果は、公開することを原則とし、本技術に関わる装置の信頼性向上や地方公共団体・山小屋の機種選択に貢献することが期待されている。

鎮守の森探検隊 夜の鳴く虫を観察しよう



5回目の探検は9月9日(土)夕方5時から松毛川で秋の鳴く虫の観察だった。

30を超える日中の蒸暑さの余韻が残る川風の吹く中、70名の親子が参加した。

講師の杉本武先生・加須屋真先生から観察するときの注意点、虫の鳴き方、代表的な秋の虫・キリギリスとコオロギの違いなどの説明を受けた後、堤防に移動した。

堤防ではすぐに虫の世界に入ってしまった子供たちとお父さん。捕まえた虫を先生に見せ、名前や特徴を聞き入る親子。いつもと違う川辺の賑わいに、散歩する人たちや虫も驚いた様子だった。

参加した保護者からは「虫の名前を知っていても、どんな虫が知らないことばかりで勉強になりました」「夜、家族だけでは虫探しに来られないし、大勢集まって親子で楽しめて友達も出来て、専門の先生に教えて頂けて一石二鳥以上です」との感想が聞かれた。

Smile スマイル

「とことんやるわ!」

栗田 悦子さん



東京で生まれ育った栗田さんは、16年間勤めた銀行を辞め、嫁いだ三島で暮らすこと30年余。年金をもらえる60歳になって、「社会に貢献できることはないか」と考えていた折、三島測候所保存の新聞記事が目に入り、夫と共に活動に参加。署名活動など、周りの人が驚くほど精力的に動いた。また、シニア工房のチラシを見て、「同じGW三島が提唱している活動なら信頼できる」との思いから様々なボランティア活動に参加。

そのうち、自宅に近い三島梅花藻の里の管理等を頼まれるようになり足掛け3年。最初の作業はプランターの水まきだったが、ミシマバイカモの生育に大きな影響を与える作業(池に入っただけの藻のぬめりを取って酸素を供給する)が日課となった。作業を始めた頃は手足や腰に痛みが出て辛かったが、夏休みに帰郷した息子さんが手伝ってくれたことで峠を越えた。1日2時間を越える作業を黙々と続けてきたが、今は仲間ができて少しは楽になったそうだ。

「任されたことは、責任をもってやり抜くわ」と強い信念をもっている栗田さん。シニア工房では「花ぼうし」という花作りのグループを作り、GW三島のエコ・リバー・インストラクターの資格も取り、活動のエリアをひろげている。

事務局新スタッフ自己紹介

島崎 禮次(しまざき れいじ)さん

1942年生まれの64歳、女房と2人で富士見台に住んでいます。趣味は花の写真撮影と、ガーデニングです。小さい頃から花壇作りや、鶏・犬の世話、田畑の手伝い等自然を満喫して育ちました。

会社では専門以外に安全・衛生・環境等を勉強しました。晩年は業界のダイオキシン、地球温暖化防止基準作りに携わり、アルミニウム缶のリサイクル事業の立ち上げを最後に退職しました。

GW三島ではリバー・インストラクター養成講座を受講し、現在は富士山周辺の湧水について勉強しています。松毛川と子供の環境教育に魅力を感じています。



玉井 貴子(たまい たかこ)さん

大阪出身です。大学、社会人まで大阪で過ごしたものの、バックパック旅行が好きで海外を旅行していたときの好奇心さめやらず・・・で、その後方向転換をしてアメリカ、グルジア、ロシア、パナマで「国際協力」の仕事をしていました。

「国際協力」とはGW三島の仕事の海外版とでも考えてもらおうと分かりやすいと思います。

また、GW三島との出会いは、最近Global + Local = Glocal なんて公式を見かけますが、私の場合かなりアンバランスなので、国内でまちづくりの活動をしている団体に関心があつたからです。

今後ともよろしくお祈りします。



魚谷 未夏(うおたに みなつ)さん



神戸生まれ神戸育ちです。野外に出ることが好きで、学生時代はテントウムシやサルの調査を行ったりしていました。その頃から環境教育の重要性を考え始めるようになりました。

中学生の頃から、「青年海外協力隊としていつかはアフリカに・・・」と思っていましたが、2年前にその念願を果たし、ケニアの博物館で環境教育隊員として働かせてもらっていました。今度は日本のGW三島で仕事をさせてもらいながら、たくさんの人たちと出会い、多くのことを吸収していきたいと考えております。

どうぞよろしくお祈りいたします。

GW三島活動記録 2006年5月29日-2006年9月28日

月	日	項目	内容	場所	参加者
5	29	エコリバー・インストラクター	第5回フォローアップ会議	Via701	25名
		松毛川自然再生	松毛川ナイトセミナー	Via701	45名
5	30	スタッフ会議		Via701	13名
6	2	そばつくり隊	落花生苗植え付け	三ツ谷地区そば畑	6名
6	3	鏡池	定例作業	鏡池	6名
6	4	平成18年度通常総会		Via701	60名
6	7	境川・清住緑地愛護会	生き物観察パンフレット贈呈式典	三島西小	5名
6	10	境川・清住緑地	田植え	境川・清住緑地	80名
6	11	三島梅花藻の里	定例整備作業	三島梅花藻の里	5名
		源兵衛川を愛する会	定例作業	水の苑緑地かわせみ橋集合	6名
6	12	エコリバー・インストラクター	第6回フォローアップ	Via701	18名
6	17	エコリバー・インストラクター	第7回フォローアップ(実地研修)	三島市民活動センター第3会議	19名
6	18	境川・清住緑地	定例整備作業	境川・清住緑地	8名
6	24	窪の湧水池ワンデイチャレンジ	水路の拡張、草刈り、植栽など	窪の湧水池	50名
		エコリバー・インストラクター	第8回フォローアップ(実地研修)	三島市内	24名
6	27	エコリバー・インストラクター	第9回フォローアップ(全体会議)	Via701	事務局長
6	28	スタッフ会議		Via702	13名
7	1	鏡池作業	定例作業	鏡池ミニ公園	6名
7	3	環境出前講座	校長会にて説明	中央町別館	2名
7	8	せせらぎシニア工房	端材もらいうけ	伊豆市天城・伊豆木器	4名
7	9	三島梅花藻の里	定例作業	三島梅花藻の里	5名
		源兵衛川を愛する会	定例作業	源兵衛川	6名
7	13	社会実験	県警協議	静岡県警	2名
7	15	境川・清住緑地	定例整備作業	境川・清住緑地	4名
7	16	理事会	第3回理事会	Via701	7名
7	19	そばつくり隊出張	そば打ち教室 in けるん	加茂川町 4795-5	2名
		三島南高校ビオトープ	協議	三島南高校校長室	4名
7	20	環境出前講座	中郷小学校(6年生全学年90名)	中郷小学校	6名
7	22	鎮守の森探検隊	松毛川の夏の生き物の観察	松毛川周辺	45名
7	23	森の木こり講座	森の小さなダム作り、手桶作り	三島市沢地・加茂川町	40名
7	24	エコリバー・インストラクター	第10回フォローアップ会議	Via701	16名
7	25	チャリティーコンサート	ステラフィオーレアンサンブル	みしまプラザホテル	139名
7	27	スタッフ会議		Via701	10名
8	5	鏡池作業	定例作業	鏡池ミニ公園	7名
8	6	境川・清住緑地	定例整備作業	境川・清住緑地	20名
8	7	エコリバー・インストラクター	第11回フォローアップ会議		12名
8	8	第18回農業土木学会賞授賞式	「環境賞」受賞	宇都宮大学	事務局長
8	12	打ち水大作戦	子どもしゃぎり、打ち水	中央町商店街 大社前商店街	100名
		自転車キャラバン隊来訪	スタッフとの交流会		15名
8	13	三島梅花藻の里	定例作業	三島梅花藻の里	6名
		鎮守の森探検隊	のぞいてみよう、川虫の世界!!	源兵衛川	80名
8	15	夏休み子ども昆虫教室	子ども何でも昆虫相談室	Via701	80名
8	16		松毛川生き物教室	Via701	70名
8	19	そばつくり隊	草刈り	三島市三ツ谷地区そば畑	15名
		そばつくり隊	「三島雲助そば」種まき	三島市三ツ谷地区そば畑	25名
8	26	鎮守の森探検隊	楽寿園生き物を観察しよう	楽寿園	50名
		鎮守の森探検隊	親と子の昆虫教室	Via701	40名
8	28	エコリバー・インストラクター	第12回フォローアップ会議	Via701	10名
8	29	スタッフ会議		Via701	14名
9	2	鏡池	定例作業	鏡池ミニ公園	6名
9	3	打ち水大作戦第2回	しゃぎり、打ち水	大社前商店街	80名
		境川・清住緑地	定例整備	境川・清住緑地	10名
9	9	鎮守の森探検隊	夜の鳴く虫を観察しよう	松毛川	70名
		GW三島事務局 歓送迎会		Via701	33名
9	10	三島梅花藻の里	定例作業	三島梅花藻の里	6名
		源兵衛川を愛する会	定例作業	源兵衛川	8名
9	17	富士山湧水インストラクター	富士山の世界遺産登録の「ト」マップ	Via701	62名
9	20	スタッフ会議		Via701	12名
9	22	富士山湧水インストラクター	富士山の地質と地下水を学ぶ	Via701	66名
9	25	富士山湧水インストラクター	富士山の地質と地下水を学ぶ	Via701	68名
9	28	腰切不動尊	9月例祭	腰切不動尊	5名

松毛川パンフレット 完成!

水質悪化により生き物が激減した松毛川。平成15年夏からGW三島は松毛川再生への取り組みを始めています。

その一環として、松毛川に生息する植物・魚・トンボ・野鳥の種類を掲載した「生き物観察ガイド」を完成させました。



渡辺豊博事務局長 受賞

8月8日(火)GW三島の渡辺豊博事務局長が農業土木学会の2006年度の環境賞を受賞した。

三島市の源兵衛川を清流に再生した実践活動とその論文が評価された。選考理由で、「地道な市民合意を重ね、プロセスを重視した計画を実践してきた」と評価された。



英国グラウンドワーク 視察研修

9月22日(金)~9月29日(金)、参加メンバーらがグラウンドワーク発祥の地、英国に向けて出発した。活動現場の視察やスタッフ・地域住民との交流などを通じて、英国グラウンドワーク活動の先進性や戦略性を学ぶ。

メンバーは大学生ら13名と事務局スタッフ2名。環境保護や人材育成など、幅広い意味での「地域再生」に取り組むグラウンドワーク活動について理解を深める。

視察に訪れたみなさん H18.6-H18.9

月	日	団体名	人数	住所
6	11	静岡大学農学部(環境フィールドワーク講義)	45名	静岡県
6	19	国土交通省沼津河川国道事務所	5名	静岡県
6	25	日本建築家協会(東京都)	15名	東京都
7	1	早稲田大学 NPO 実践論	60名	東京都
7	2	早稲田大学 NPO 実践論	60名	東京都
7	7	磐田市自治会連合会	40名	静岡県
7	15	大阪府田尻町役場企画人権課	1名	大阪府
7	20	佐世保市吉井地域審議会	14名	長崎県
7	27	大阪府神安土地区改良区	22名	大阪府
9	12	ベルリン・ドルトムント大学 まちづくり専門家	3名	ドイツ
9	18	日本女子大学	15名	東京都
9	19	日本女子大学+県職員研修生同行	16名	東京都
9	24	(社)辰野青年会議所	15名	長野県

グラウンドワーク全国研修センターよりお知らせ 参加費無料

- *10月9日(月・祝日)~10日(火)
- *10月9日: みしまプラザホテル(三島市本町14-31)
- *10月10日: Via701 1階ホール(三島市本町7-30)

英国グラウンドワークより環境ビジネスの支援に関わる専門スタッフを招き、シンポジウムとワークショップを開催いたします。地域の多様な資源をいかしてNPOの自立を支援するコミュニティ・ビジネスや、日英のグラウンドワーク組織の先駆的・創造的な取り組みの紹介など、様々な立場の参加者の意見交換を通じて、これからのまちづくり(地域経営、地域再生)やNPOの事業運営のあり方について考えます。 **両日の交流会のみ有料**

グラウンドワーク三島 ボランティアニュース31号編集室

大島公好子 川崎徳子 岸野和子 城所伯帝 小松幸子 斎藤彩子 坂井良重 山崎多紀子(50音順)
GW三島事務局